

車の先進安全技術

JAF メイト3月号の記事の中で見つけました、本当に自動車は進化しています。

- *アダプティブ・コントロール・クルーズ・・・レーダー波などで前方監視、前車がなければあらかじめ設定した速度で、前車があれば減速して車間距離を一定に保つ
- *レーン・キープシステム・・・小型カメラで車線を認識、自動的に車線逸脱防止
- *アダプティブ・フロントライティング・システム・・・ハンドルを切った方向にヘッドライトの向きを変えて視界を保持
- *衝突被害軽減ブレーキ・・・レーダー波やカメラで前車を検知、衝突の危険性が高い場合、警告音を発したり、自動的にブレーキをかけたりする
- *エレクトロニック・スタビリティ・コントロール・・・車のわずかな横滑りをセンサーが検知、アクセルやブレーキを自動制御、車を安定させる(この機能をより高機能化させたものが、VDIM)

この他にも、まだまだあるようで、本当にハイテク化されていて驚きですが、まだ完全に自動運転ではありませんので、運転者の技能と注意力は不可欠のようです。

世界無形遺産

いよいよ、FCC でも、すべてのアマチュア無線の試験制度からモールス送受信の廃止を決定したようで、このことについて、CQ 誌3月号で、JK1OPL 小野 OM が、「・・・もちろん、試験科目からなくなっただけで、モールス通信が禁止されたわけではありませんから、やりたければ自分で覚えれば良いだけという理屈ではありますが、覚える必要は無いというものは、やがて埋もれる運命にあり“世界無形遺産”として残る以外に道はありません。・・・」と、また、「・・・かつて我が国では、第1級アマチュア無線技士に対して和文送受信の能力が必要とされましたが、現在はその必要がなく、結果として各バンドを聞いても和文通信を聞く頻度は極めて少なくなり、この延長上でモールス受信能力が不用ということになれば、やがて最後の砦もくずれて行くのは必然でしょう。・・・」との記事を書いています、読まれた方も多いと思いますが、私も全く同感で、嘆かわしいことと思っています、とは言っても、CW 嫌いの方の立場から見れば、当然のなりゆきで、嘆かわしいことでもなんでもないということかも知れませんが・・・

この、世界無形遺産になるであろう運命の CW、これを守っていく一翼をになうべく(一寸おこがましいですが・・・)、CW の普及につとめ、CW 運用にもっとアクティビティを上げなければいけませんね。

記事内容はほとんど、JAF メイトおよび CQ 誌からの転載です、ページ数が半端だったので、枚数合わせに急ぎ書きました。